



未来にタネをまこう。

JACCS

株主通信 第85期報告書 2015年4月1日～2016年3月31日

株主のみなさまへ

2年目を迎えた中期3カ年経営計画「ACT-Σ (アクト・シグマ)」のもと、持続的な利益成長と株主価値の最大化を追求してまいります。

取締役社長

板垣康義



2016年3月期の経営成績

第85期(2016年3月期)の消費者信用産業は、ソーラローンやカードキャッシングなどの分野で縮小傾向が見られたものの、Web申込機能の拡充による顧客及び加盟店の利便性向上、リフォームを中心とした住宅分野の開拓、決済領域の拡大やEC市場の伸張などによって、全体としては前年度比プラス基調で推移しました。

このような事業環境のもと、当社グループは2015年4月にスタートした中期3カ年経営計画「ACT-Σ (アクト・シグマ)」の諸施策推進に経営資源を積極投入しました。クレジット事業、カード事業、ファイナンス事業の主力3事業について事業基盤のさらなる盤石化に努めるとともに、新事業ならびに海外展開の加速を通じて事業領域の一層の拡大を図っています。また2015年6月に発足したコスト構造改革推進委員会を中心に、業務フローの改善やローコストオペレーションの推進に注力しました。

こうした取り組みの結果、当期の連結経営成績は前期比で増収増益を達成し、実り多い1年とすることができました。

「ACT-Σ」の進捗と今後の展望

当社グループは現在、「ACT-Σ」の展開を通じて〈日本を代表する先進的なコンシューマーカンパニー〉への飛躍を目指しています。2016年3月期は、関係会社による新たな事業分野への進出、輸入車マーケットの攻略など、多くの成果を残すことができました。

中計2年目となる2017年3月期は、引き続きIT投資効果の極大化やコスト構造の抜本的改革を推し進め、経営基盤のさらなる強化を図っていきます。また「ACT-Σ」で掲げた「グループシナジーによる収益基盤の拡充」「経営資源の戦略的活用による先進性の追求」「高度なCSRの実践」という3つの重点課題に全社を挙げて取り組むことにより、高品質な金融サービスを社会に発信するとともに、持続的な成長と株主価値の最大化を実現してまいります。

株主のみなさまには、より一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

業界初！ プリペイド機能を付与した福利厚生会員証を発行

2015年9月、ジャックスと株式会社ベネフィット・ワンは、ベネフィット・ワンの企業・団体の福利厚生会員を対象に、業界初となるプリペイド機能を付与した会員証を発行しました。この新会員証は、各種優待サービスの利用に加え、チャージ式プリペイドカードとして、Visa加盟店での買い物やインターネットでの商品購入の決済に使用することも可能です。



JACCSの社会貢献の取り組み

1 福祉作業所の自主製品の社内販売会を開催

当社本部所在の恵比寿にある福祉作業所「おかし屋ぱれっと」の方たちに、自主製品を当社役職員向けに販売していただく社内販売会を開催しました。売上に貢献するとともに、障がいのある方たちの社会参加の場として活用いただきました。会社も役職員が支援する気持ちに応えるため売上金額と同額を寄付し、事業所で必要としている機材等の購入に役立てていただきました。



2 創業の地、函館の保育園35園に積み木を寄贈

間伐材を活用した積み木づくりボランティアに全国延べ718名の役職員が参加しました。作成した積み木は、当社創業の地・函館市内の保育園35園に寄贈し、園児たちが木のぬくもりを感じられる遊具として、使用しています。



3 役職員の家族も参加して「キワニスドールをつくる会」を実施

一般社団法人東京キワニスクラブ様のご協力により、入院中の子どもたちに手作りの人形を届ける活動「キワニスドールをつくる会」を開催し、役職員68名が参加しました。また2月には休業日に開催したことにより、役職員の家族16名も参加しました。



4 「FITチャリティ・ラン2015」へ参加

東京の金融関連サービス企業が集結して行うチャリティイベント「FITチャリティ・ラン2015」へ参加しました。このイベントで集まった募金は、地域に根ざした活動を行っている非営利団体へ寄付されます。当社からは、61名のランナーと3名のボランティアが参加しました。



アジアにはばたく JACCSの国際事業展開

ベトナム
Viet Nam
フィリピン
Philippines
インドネシア
Indonesia



ベトナム

ベトナムと日本の架け橋を目指して

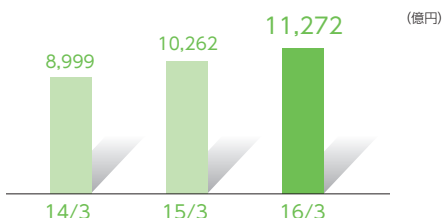
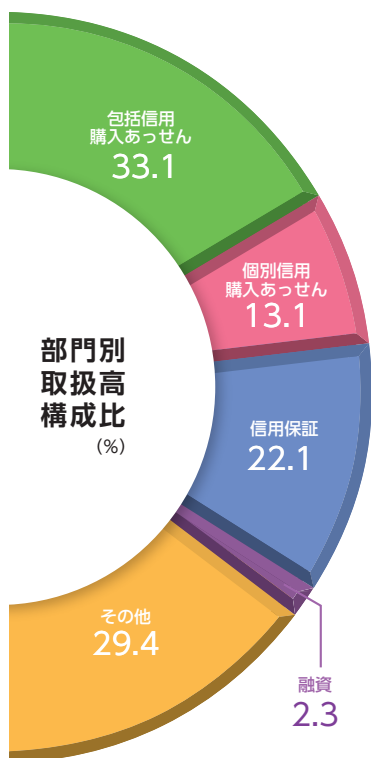
JACCS International Vietnam Finance Co., Ltd.

(JIVF)は、ホーチミン市を本拠とし、販売金融を手掛けるジャックス出資100%の現地法人です。2010年6月の設立以来、ベトナム国内の消費者、取引先との間に信頼関係を一歩ずつ築きながら、営業エリアを着実に拡大してきました。

また地域貢献活動にも積極的に取り組み、2015年12月には初の社内チャリティバザーを開催、集まった義援金を慈善団体に寄付しました。JIVFは今後も、販売金融事業とCSR活動を通じて、ベトナムの経済・社会の発展に寄与し、同国と日本の架け橋となるように取り組んでいます。



部門別情報

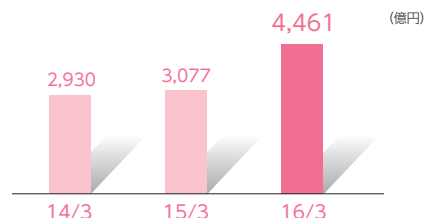


包括信用購入あっせん

取扱高 **1兆1,272億円**
前期比 **9.8% 増** ➡

カードショッピングにつきましては、ジャックスロイヤルメンバーズプログラム(前年度の利用金額に応じてさまざまな特典が受けられるサービス)をはじめとする利用促進のプロモーションやキャンペーンの実施、各方面での提携カード推進及び新規会員の拡大などから取扱高が増加いたしました。

また、新商品として、株式会社ジェシービーが展開する非接触型IC決済サービスを搭載した「ジャックスカードJ/Speedy™」の発行を開始しました。専用端末にかざすだけでスピーディーに決済が行われ利便性が飛躍的にアップすると共に、よりセキュリティレベルの高いIC決済が可能となりました。今後、国内のキャッシュレス化の推進及びアジア諸国での拡大が見込まれます。



個別信用購入あっせん

取扱高 **4,461億円**
前期比 **45.0% 増** ➡

ショッピングクレジットにつきましては、主要業種である呉服、時計・宝石・貴金属及び情報・通信分野が順調に推移したことから取扱高が前年を上回りました。

また、利便性の観点から推進を強化しているWeb関連では、「WebBy店頭かんたんクレジット」の新機能追加や専用タブレット端末の導入拡大などからWeb経由での申込み比率が順調に増加いたしました。

オートローン(オートローン保証を含む)につきましては、一部国産新車ディーラーの取扱いが伸び悩んだものの、中古車販売店を中心とした各販売チャネルへの施策の実施及び取引深耕に努めたことから、国産車の取扱高が順調に推移いたしました。一方、輸入車におきましては、インポーターとの新規取引の拡大や、キャプティブファイナンス(*)としての取り組み強化、またディーラーの低金利施策に伴うクレジット利用の増加などから取扱高は前年を大幅に上回りました。

(※) メーカーと連携した自動車販売金融事業



インドネシア

人口2億5,500万人の巨大マーケットに挑む

ジャックスの持分法適用会社であるPT Mitra Pinasthika Mustika Finance. (MPMF) は、インドネシアで二輪車・四輪車のクレジットを中心に幅広い事業を展開するファイナンス会社で、インドネシア国内に81支店の広範なネットワークを構築しています。全社員約3,000名の平均年齢は32歳と、インドネシアの平均年齢(28歳)同様に若く、活気に満ちた企業文化を育んでいます。

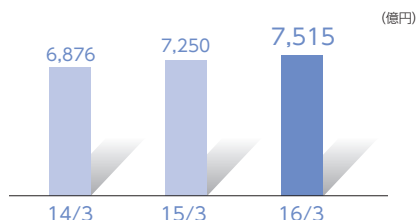
インドネシアは2億5,500万人の人口と豊富な天然資源を持つASEAN屈指の新興大国。この魅力あるマーケットで、MPMF社はジャックスが日本で積み上げてきた経験と知見を活かしつつ、業容のさらなる拡大に努めています。



フィリピン

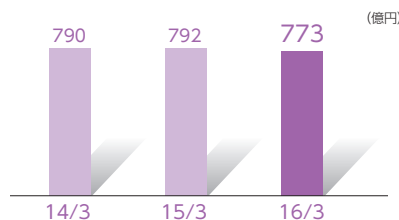
ベトナム、インドネシアに続く、ASEAN加盟国3カ国目の進出

フィリピン・パシッグ市に本社を置くMMPC Auto Financial Services Corporation (MAFS) が2016年8月の営業開始を目指し、準備を行っています。MAFSは、ジャックス、双日、三菱自動車工業の合併会社、フィリピン最大の商業銀行BDO Unibankの子会社が合併で設立した、三菱車を専門で取り扱うファイナンス会社。今回のフィリピン進出により、ジャックスのASEANにおける事業展開先は3カ国となります。



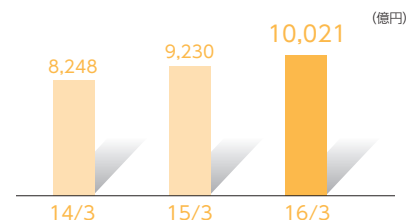
信用保証

取扱高 **7,515億円**
前期比 **3.7% 増**



融資

取扱高 **773億円**
前期比 **2.4% 減**



その他

取扱高 **1兆21億円**
前期比 **8.6% 増**

金融機関個人ローン保証につきましては、株式会社三菱東京UFJ銀行のWeb商品及び地方銀行等との取引が拡大し、証書貸付、カードローンなど取扱高が前年を大きく上回りました。また、新商品として「相続支援ローン」「空き家等活用ローン」をリリースし、保証提携を進めてまいりました。

投資用マンション向け住宅ローン保証につきましては、不動産取引が活発化し期を通して好調な販売が続くなか、取引拡大に向け営業を強化したことから過去最高の取扱高となりました。

住宅関連商品につきましては、ソーラーローンの取扱高が減少いたしました。一方、ハウスメーカーを中心としたリフォームローンは順調に推移したことから全体の取扱高は前年を上回りました。

カードキャッシングにつきましては、既存会員及び未稼働会員に対するプロモーション等を実施したものの、取扱高の減少の歯止めとなるまでにはいたりませんでした。

集金代行業務につきましては、家賃関連及びスポーツクラブの会費等順調な取扱いとなりました。また、集金代行サービス専用のWebサイトをリリースし、委託者向けのサービス向上に努めてまいりました。

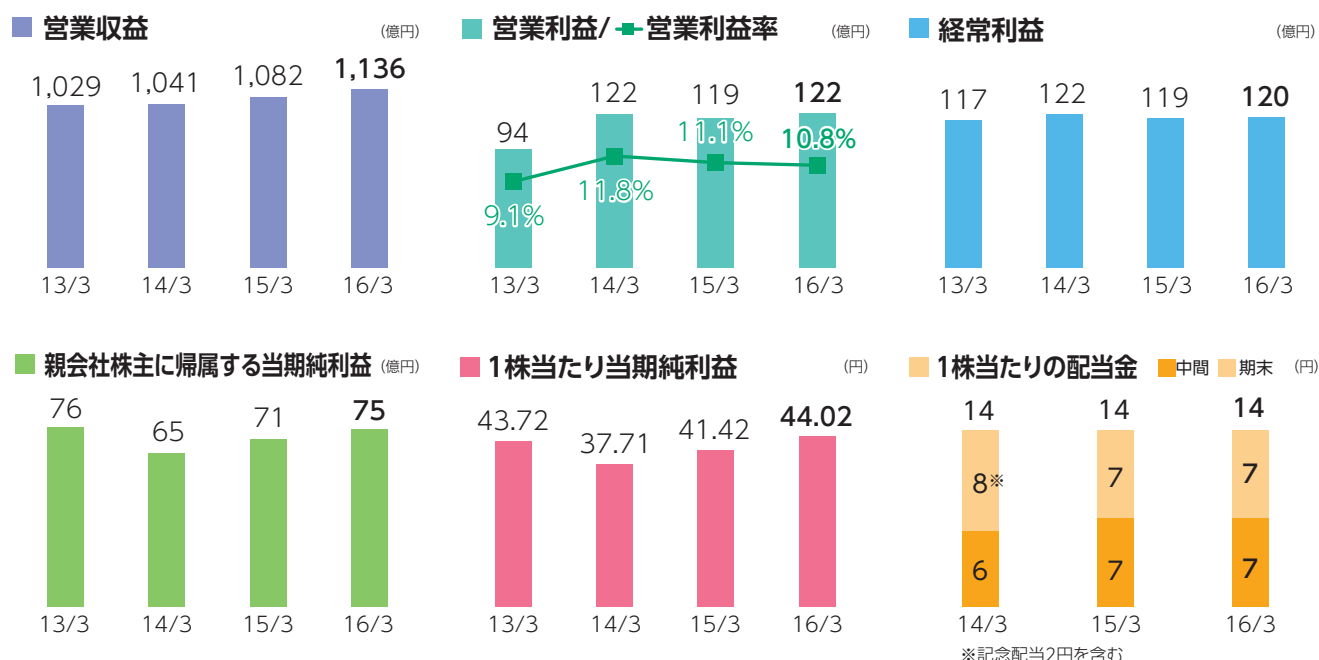
連結子会社につきましては、ジャックスリース株式会社におけるリース事業が順調に拡大し、取扱高を伸ばしました。

そのほか、福利厚生サービスの大手である株式会社ベネフィット・ワンと提携し、Visaプリペイド機能を付与した福利厚生会員証を参加企業・団体の福利厚生会員に向け発行するなど新たな取り組みを実施してまいりました。

連結決算ハイライト

取扱高及び営業収益は、住関連、特にリフォーム分野が下期より反転拡大したことや、輸入車を中心としたオートローン及びカードショッピングが各種プロモーションの継続的な実施などによって順調に増加いたしました。

営業利益は、良好な調達環境により金融費用が減少したこと等により増益となりました。



連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2015年3月31日)	当連結会計年度 (2016年3月31日)
資産の部		
流動資産	3,077,959	3,362,172
固定資産	80,085	75,468
有形固定資産	20,087	19,666
無形固定資産	23,458	25,441
投資その他の資産	36,538	30,359
資産合計	3,158,044	3,437,641
負債の部		
流動負債	2,566,193	2,839,280
固定負債	459,004	465,077
負債合計	3,025,198	3,304,358
純資産の部		
株主資本	124,311	129,687
資本金	16,138	16,138
資本剰余金	30,511	30,506
利益剰余金	79,287	84,451
自己株式	△1,625	△1,407
その他の包括利益累計額	8,396	3,422
その他有価証券評価差額金	6,452	4,302
繰延ヘッジ損益	△41	△25
為替換算調整勘定	905	159
退職給付に係る調整累計額	1,080	△1,013
新株予約権	137	172
純資産合計	132,846	133,282
負債純資産合計	3,158,044	3,437,641

注：記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2014年4月1日から 2015年3月31日まで)	当連結会計年度 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)
営業収益	108,259	113,673
営業費用	96,284	101,431
営業利益	11,975	12,242
営業外収益	186	133
営業外費用	210	284
経常利益	11,951	12,091
特別利益	80	41
特別損失	455	155
税金等調整前当期純利益	11,576	11,977
法人税、住民税及び事業税	4,635	4,333
法人税等調整額	△165	74
当期純利益	7,107	7,569
親会社株主に帰属する当期純利益	7,107	7,569

注：記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2014年4月1日から 2015年3月31日まで)	当連結会計年度 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△86,683	△144,453
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13,942	△8,859
財務活動によるキャッシュ・フロー	115,197	151,897
現金及び現金同等物に係る換算差額	35	△2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	14,607	△1,418
現金及び現金同等物の期首残高	70,883	85,491
現金及び現金同等物の期末残高	85,491	84,073

注：記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

